

「働き方改革通信：Smile」は、“先生の Happy が子どもの笑顔をつくる”を取組姿勢とした「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」の進捗（達成目標の現状等）や各学校での取組を共有し、更なる取組の推進・充実につなげるために発行しています。

Topic

働き方改革を支える！ 横浜市教育委員会の取組

①

部活動休養日の設定と実施上の課題

戦略2- (1)- ② P.20

「部活動休養日の設定について（教指企第 3106 号）」に基づき、部活動休養日の設定が広がってきています。今年度中の設定を求めているなかでの途中経過（9月1日時点の状況）とはなりますが、「部活動休養日の設状況」をお伝えします。

部活動休養日の設定状況（平成30年9月1日時点）

	全部活動で設定			休養日はあるが 部活動ごと設定	その他 (※)	合計	一部の部活で 設定	未設定
	平日1日・土日1日	平日1日	土日1日					
中学校 義務後期	113校 76.9%	8校 5.4%	1校 0.7%	17校 11.6%	3校 2.0%	142校 96.6%	4校 2.7%	1校 0.7%
特別支援 学校	0校 0%	0校 0%	0校 0%	1校 50.0%	1校 50.0%	2校 100%	0校 0%	0校 0%

※「可能な限り平日1日と土日1日を設定するが、大会等で土日いずれも活動を行った場合は平日に振り替える」など

部活動休養日の設定は進むものの、完全実施に向けては様々な課題もあるようです。一方、「部活動休養日」の設定（実施）上での工夫も聞こえてきます。その両者の声をお伝えします。

“ほぼ全校”で休養日設定！ ⇔ “完全実施”に向けた多くの課題

こんな工夫をしています！

教職員の負担軽減の見地から、全ての部活動を複数顧問制としています。日程を調整しながら必ず休日をとるように指導しています。

大会等で土日に部活動を行った場合は、平日を休養日とするように伝えていきます。様子を見ると部活動ごとに異なる休みをとっているようです。

月替わりの5日前までに、管理職へ各部活動の予定表を提出してもらっています。チェック後、必要な場合は再提出を求めています。

区の学校経営推進会議で部活動についての研修を行いました。他校での取組を参考に部活動規約等の見直しを進めています。



土日の活動（大会や強化リーグ、招待試合等）を見直さない限り、休養日設定は徹底できないのではないのでしょうか。

運動場や体育館など活動場所が限られているなか、休養日という日程までの制限があると、正直、厳しいです。

まだ休養日を設定していない学校があると聞きます。やるからには全校でしっかりやってほしいと思います。

部活動は教職員のモチベーションにもつながっています。学校や地域の実情に応じて設定すべきだと思います。

上記のように、部活動休養日の意義は理解しつつも、その実施には課題もあるようです。この実情を踏まえ、課題解決に向けた議論を重ね、今後の部活動のあり方を検討していきます。

今年度より、部活動の顧問としての役割を担うことができる「部活動指導員」の配置を進め、現在、53人の指導員が活躍しています。非常勤講師が指導員となっている学校が多い中、学習塾経営者や地域のスポーツクラブ会長、音楽教室講師など、地域の方々にサポートを頂いているケースもあります。今回は、大学生の指導員を活用している橘中学校野球部の取組を紹介します。

子どもや顧問の「ありがとう」に感謝

4月から部活動指導員として活動していますが、実は卒業生でもあり、3月までも部活動支援に関わっていました。放課後の練習や土日の練習試合等の引率などのサポートをしています。部活動の技術的な相談が中心ではありますが、年齢が近いこともあって、気軽に質問してきてくれます。生徒との距離が近く、その上、専門的な話ができることはとても嬉しいです。



辻村 大輝 さん

制度を周知して各校で活用を！

辻村さんが「部活動指導員」としてサポート頂いているおかげで本当に助かっています。専門家としての技術指導はもちろん、教員志望でもあるので、本人にとっても良い経験につながっていると確信しています。この制度が、より多くの学校で活用されることを期待します。川原先生（野球部顧問）より

卒業生が地域の一員として、また先輩として母校の教育活動を支援してくれることは、部活動に限らず、様々な効果が見られます。それぞれの、学校（地域）ならではの部活動指導員のあり方を考え、実状に応じた配置拡充を進めていきます。



今年もやります！「働き方改革フォーラム」



2月4日（月）
14時15分～



伊藤研修センター
港北区新横浜2-19-1



今年も民間企業とタイアップ！
（「働き方改革推進校」の発表も予定しています）

※伊藤研修センターは、「株式会社セブン&アイHDGS」の研修施設です。

このテーマ **本気** で考えてみませんか **登校時間編**

働き方改革の推進に明確な正解はないのかもしれませんが。このコーナーでは、みんなで考えるきっかけとなるようなテーマを取り上げていきます。今回は教職員勤務開始時刻と児童の登校時間について考えます。



丸山台小学校の昇降口に貼られているポスター

みなさんは左のポスターからどのようなことを感じますか？

え？ 8時15分？
遅いんだなあ

うちの学校は
8時には来てるなあ

本当は・・・
これが正しい??

でも・・・
変えるのは難しいなあ

丸山台小学校を訪れた際に目に入ったのが左のポスターです。何気ないポスターですが、色々なことを考えさせられます。多くの小学校では、8時頃に正門を開けて子どもたちを迎えています。保護者も8時頃に登校させることが日々のリズムになっています。でも教職員の勤務開始時刻は…。

学校

8時15分 勤務開始だけど
子どもたちを温かく迎えたい



え？ 先生の勤務開始時刻って??
でも、本当にありがたいです！

保護者

今回テーマが、学校にとって大きな課題となっているのか、実際問題、時間を変えることはできるのか等、大変難しいものがあるかとは思いますが、でも現実として、多くの学校において、教職員の勤務開始時刻前に子どもたちは登校してきています。現在も行われている保護者や地域の力を借りた朝の見守り活動のあり方なども含め、PTA や学校運営委員会等で話し合うテーマの一つとも言えます。

(1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (平成30年11月5日時点)

項目	目標	平成30年10月実績			
		平均	小学校	中学校	特別支援学校
時間外勤務月80時間超の教職員の割合	0%	22.4% ☹️ 前月比 +4.2	15.7% ☹️ 前月比 +6.1	40.6% ☹️ 前月比 +1.0	1.8% ☹️ 前月比 +0.6
19時までに退勤する教職員の割合	70%以上	66.3% 😊 前月比 +3.0	63.9% 😊 前月比 +4.1	66.4% 😊 前月比 +0.5	87.1% 😊 前月比 +2.1

※退勤管理を導入した小・中・義務・特支の教員について、ICカード等による記録から機械的に算出した集計結果。(以下、同様)



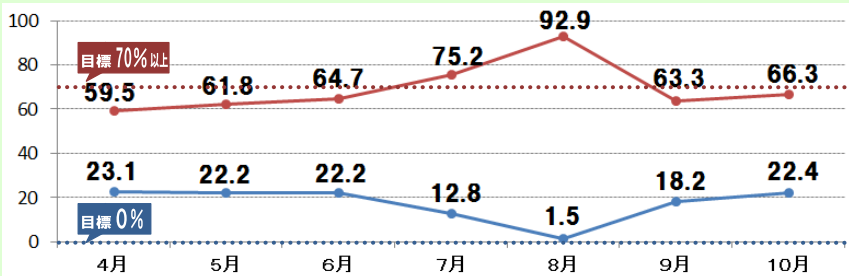
全校種で「月80時間超」が増えました。10月は、運動会・体育祭、体育大会(小)、文化祭、宿泊行事等が重なることもあったでしょう、各種学校行事の時期やあり方を考える必要もありそうです。

達成目標に対する現状値

この調査内容を分析し、繁閑を意識した各種事業や調査等のあり方を考えていきます。

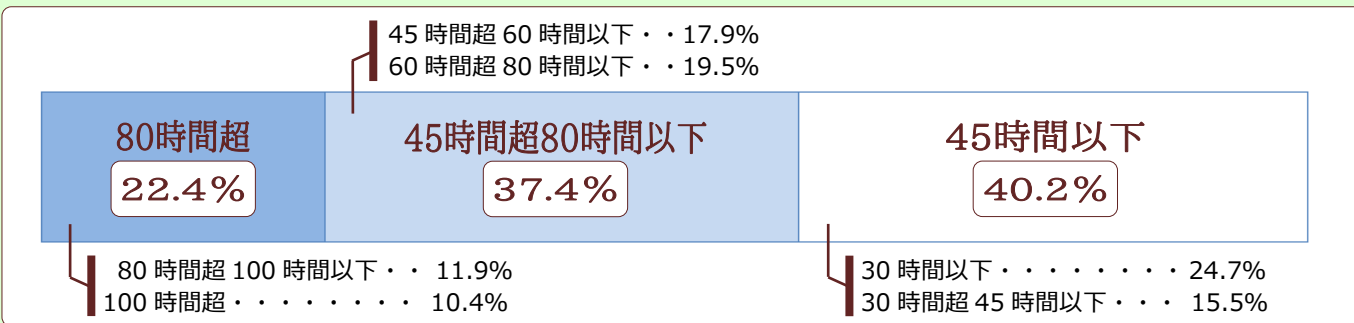
青線 時間外勤務月80時間超の教職員の割合

赤線 19時までに退勤する教職員の割合



(2) 時間外勤務 (平成30年10月) の詳細

◇時間外勤務の割合 (平均)



◇時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり時間外勤務	100時間超	80時間超100時間以下	小計(80時間超)	60時間超80時間以下	45時間超60時間以下	小計(45時間以下)	30時間超45時間以下	30時間以下
小学校	4.1%	11.5%	15.7%	22.6%	21.1%	40.7%	16.8%	23.9%
中学校	25.7%	15.0%	40.6%	16.1%	12.8%	30.5%	11.3%	19.2%
特別支援学校	0.1%	1.7%	1.8%	5.3%	11.7%	81.2%	22.7%	58.5%
平均	10.4%	11.9%	22.4%	19.5%	17.9%	40.2%	15.5%	24.7%



小学校と中学校の「月80時間超」と「19時までに退勤」の数値を比べてみると、相対的に「小学校は平日に残って仕事」をする教職員が多く、中学校は「土日に仕事(部活動他)」をする教職員が多いことが推察できます。校種ごとの課題を受け止め、その解決に向けた取組を進めていきます。

※本資料の数値については、項目ごとに四捨五入により端数処理を行っているため、合計と内訳の和とが一致しない場合があります。